

説明・同意書

患者番号		記載日	
患者氏名		診療科	
生年月日		性別	

みほん

〔説明要旨〕

私たち北里大学病院スタッフ一同は、診療に誠意を持ってあたり、治療に最善を尽くします。診療行為（検査、処置、分娩手術など）は、身体の状態を回復し、病気を治すために行いますが、程度の差はあれ侵襲（ダメージ）を伴います。ここでは、予想される重要な合併症について、ご説明いたします。しかし、極めて稀なものや予想外のもの、個人の体調によって症状が起こる場合があります。また、診療とは無関係の病気が診療行為の前後に発症する場合があります。すべての可能性を言い尽くすことは不可能で、合併症や偶発症が起これば、重大な後遺症が残る可能性も否定できません。

以下の内容を承知された場合は、同意書に署名をしてください。疑問がある時は、納得できるまで質問をしてください。納得できない場合は、無理に結論を出さず、他の医師の意見（セカンド・オピニオン）を聞くことをお勧めします。必要な資料は提供します。他の医師の意見を求めることで不利な扱いを受けることはありません。（緊急時には、対応できない場合があります。）

治療・検査等の名称 無痛分娩について

(説明内容)

1. 上記診療行為の内容・目的及び必要性について

・分娩に対する不安や恐怖心、陣痛はストレスの原因となります。



子宮の血流を減少させ、お腹の赤ちゃん（胎児）が苦しくなってしまうことがあります。

・したがって、痛みをとることは胎児にとって都合が良いと言われています。

・血圧が高かったり心臓に病気がある妊婦さんの場合は、血圧を安定させるために鎮痛が必要になることもあります。

2. 方法

『硬膜外鎮痛』『脊髄くも膜下硬膜外併用鎮痛（CSEA）』

①背中を消毒した後、痛み止めの注射を行います。

②硬膜外腔という狭いスペースに細いチューブを入れます。CSEAの場合は先にくも膜下腔に鎮痛薬を入れ、その後硬膜外腔に細いチューブを入れます。

③チューブから鎮痛薬を少しずつ注入し、陣痛の痛みを感じなくします。

*硬膜外鎮痛やCSEAができない場合・・・血液が固まりにくい状態のとき、
感染しやすい状態の時などです。

バランス麻酔→分娩進行状況により鎮痛薬と麻酔薬の注射を行っていきます。

3. 危険性・合併症・副作用について

・胎児への鎮痛の影響：鎮痛薬は胎盤を通過してわずかに赤ちゃんへ移行しますが、たくさんさんの新生児を調べた結果、鎮痛薬の影響はないといわれています。赤ちゃんの心拍数が低下することがありますが数分以内の一時的なものです。

説明・同意書

患者番号				記載日	
患者氏名				診療科	
生年月日		性別			

みほん

・お母さんの副作用 : 極めて稀 (50,000~100,000 例に 1 例程度) に麻酔薬中毒や下肢神経障害などの重篤な合併症が起こることがあります。

足のしびれ、脱力感、尿が上手く出せない、かゆみ、血圧低下、発熱が現れることがありますが、一時的なものです。

・お母さんの合併症 : 1%程度の頻度で産後に強い頭痛が出ます。他に薬剤アレルギー

神経障害、局所麻酔薬中毒、高位・全脊髄くも膜麻酔、硬膜外血腫・膿瘍、髄膜炎が起こることがありますが、きわめて稀で後遺症を残すようなものは 100,000 例に 1 例程度と考えられます。

以上、私は、上記医療について説明致しました。

____年 ____月 ____日

産婦人科 説明医師 _____ 印

北 里 大 学 病 院

北里大学病院長 殿

____年 ____月 ____日

私は、上記診療行為の説明を受け、内容を理解いたしましたので同意します。又、上記診療行為を行う上で必要な処置、及び上記診療において予期されない状況が発生した場合には、それに対処する緊急処置を受けることも併せて同意します。

患者氏名 _____ 印

親族、又は理解補助者 (保護義務者・法定代理人)

本人との関係 (_____)

氏名 _____ 印

病院管理番号 4013

以下余白